

郊外住宅地の活性化

おがわ なおと
小川 直人

民主党・市民連合



問 郊外住宅地のもみじ台地区や真駒内地区では、空き家などが目に付き、公園で遊ぶ子どもたちも少なくなりました。両地区では、小学校の統廃合が予定され、独居老人対策や老朽家屋の維持管理など、人口減少・少子高齢化の進展による諸課題が社会問題化しています。全国的にも同じ状況であり、国と大都市の連携が求められています。国の取り組み内容と本市の考え方について伺います。

答 本市を含む7都市および関係省庁により、郊外住宅地の再生を検討する協議会が設立され、ここでの議論を踏まえて、具体的な国の施策が検討される予定です。本市としては、既存の資源を活用しながら、地域コミュニティの強化を目指したいと考えています。

市議会 動きの

風力発電事業

ふくだ こうたろう
福田 浩太郎

公明党



問 以前、手稲区山口における風力発電事業者を公募・選定しましたが、事業化には至りませんでした。今後の風力発電事業について、どのようにお考えですか。

答 風力発電事業は、再生可能エネルギーとして普及が期待されています。大都市近郊での課題を整理しながら、事業の在り方を検討したいと考えています。

問 銭函地区に建設が計画されている風力発電施設について、低周波音による健康被害への不安が市民に広がっています。市外での民間事業ではありますが、本市も一定の関与をすべきです。どのように対応するのですか。

答 市民への説明会を開催するよう事業者に要請しています。また、環境影響調査の結果を検証し、適切な措置を取るよう求めていると考えています。

問 もみじ台地区では、「地域のお茶の間の在り方」や「小学校の統合・跡利用の検討」などが、まちづくり会議の場で議論されています。郊外住宅地には市民の約4割が居住していることから、全市的な課題として取り組まなければなりません。

もみじ台地区の取り組みをどう評価し、また、この地区のまちづくりを今後どう進めるのか伺います。

答 もみじ台地区の取り組みは先進的で、他の地域のモデルになるものと考えています。地域の活動を総合的に進める仕組みづくりのほか、地域コミュニティの場としての小学校の跡利用について、地域の意向を十分に踏まえながら、活用方法の検討を進めたいと考えています。

南区のまちづくり

むねかた まさとし
宗形 雅俊

自民党



問 第4次長期総合計画や都市計画マスタープランでは、地域生活を支える拠点を「地域中心核」として位置付けています。市内13カ所の地域中心核のうち、琴似の市街地再開発事業や白石区役所の建て替えなど整備計画が進められようとしている地区がある一方、現時点では具体的な取り組みが不透明な地区もあります。地域中心核と位置付けられた拠点について、どのように考えているのか伺います。

答 今後の人口減少や超高齢社会の到来により、地域中心核の機能向上は、ますます重要になると認識しています。地域の特性に合わせた手法を組み合わせ、これまで以上に積極的な施策展開を図っていきます。

問 南区の真駒内地区も地域中心核として位置付けられていますが、拠点としての育成・整備は不十分な状況です。65歳以上の比率が10区で最も高く、小学校の統廃合や北海道青少年会館の廃止が予定されるなど、南区を取り巻く環境は変化しています。また、真駒内駅周辺は集合住宅の老朽化により、街並みにも問題があります。

環境の変化に伴い、まちづくりの取り組みを検討すべき時期にきていると考えますが、どのように進めるのか伺います。

答 今年度中に地域との意見交換を行い、23年度に真駒内駅周辺のまちづくり指針を定めたいと考えています。真駒内駅前を、にぎわいを生み出す空間として再生し、高齢者や子育て世代の暮らしを支える機能の充実と、真駒内の歴史を象徴する街並みづくりが重要と考えています。